

LINQって内包表記なんだ！
これは俄然面白い。

「リレーショナルデータベースや XML に対する操作をプログラミング言語に統合するもの」というのは LINQ の説明の 3 分の 1 程度でしかない(かつわかりにくいし、厳密にはまちがっている)。

LINQ ではクエリ結果がオブジェクトとして返されるが、それはイテレーターのような。おそらくデータベースでは行オブジェクトなどを対象とするのだろうし、集合を扱う場合には集合の各メンバーを対象とする。

- ・ 内包表記なので、集合をイテレーションの対象とする。
- ・ そこから要素を 1 つずつ抜き出し、それぞれの要素データに対してフィルタをしたり処理をする。
- ・ その結果をまたイテレーターのオブジェクトとして返す、というのが LINQ。

「何を対象として操作するのか」という頭で処理を記述する必要がある。

from 句で指定するのが対象とする個々の「何」。

in の後に指定するのが「何」が所属する集合。

where 句で集合から取り出す「何」をフィルタする条件を指定できる。

select 句で LINQ が最終的に返すイテレーターに含めるデータを指定する。「何」をそのまま返したり、「何」を加工して返したりするのが普通。

結局 LINQ は集合を簡潔に扱える強力な機構を言語に備え付ける、という課題に対処しているだけであり、その構文を SQL から拝借してきている、というだけだ。

その結果、「クエリを言語に統合したかのように見える」ということだ。

SQL が集合を扱うという問題を目的とした構文である、ということを理解できていないと、LINQ が何のために存在しているのかわけがわからないだろう。

最終更新時間：2020 年 06 月 27 日 09 時 59 分 10 秒